vinetur

アイヒバウム、残るヘレスビールを1ケース5ユーロで販売へ

9月の生産終了後、旧マンハイム醸造所に残る約80パレットのヘレスビールを、11月24日から在庫処分価格で販売する。

2026年11月23日（月）



9月に生産を停止したマンハイムの老舗醸造所アイヒバウムは、旧工場での事業終了に向け、残っているヘレスビールを瓶の返却保証金別で1ケース5ユーロで販売する予定だ。

t-onlineとBerliner Zeitungが11月21日に報じたところによると、在庫一掃セールは11月24日火曜日に始まり、約4日間、または完売まで続く見込み。販売対象は、醸造終了後にドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク州マンハイムの旧工業用地に残された在庫だ。

報道によると、処分対象のヘレスビールは約80パレット分残っているが、在庫の全容は公表されていない。各パレットの正確な積載量は独立して確認されていないため、残量をリットル数や瓶数に

確実に換算することはできない。また、報道には比較可能な従来の小売価格や卸売価格も示されておらず、値引き率や販売による収益の見込みを算出することはできない。

今回の在庫処分は、マンハイムで最も古い工業企業の一つ、Privatbrauerei Eichbaumの長期的な衰退を受けたものだ。同社は1679年に創業し、2025年10月に破産を発表する前には約300人を雇用していた。これはSWRが以前に報じている。マンハイムの施設では2026年9月に生産が終了し、同地での醸造活動に幕が下りた。

今回の低価格は、ドイツのビール市場全体の動向を示すものではなく、例外的な在庫処分価格だ。販売されるのは、報道で確認された残りのヘレスビールに限られる。現場に残っている可能性のある清涼飲料やその他の飲料は、報じられた販売計画には含まれていない。

今回の販売計画が注目されるのは、破産後の工場閉鎖が、単なる生産終了にとどまらず、保管されている残品の処分にまで及ぶ最終段階を示しているためだ。また、醸造業界の企業再編に伴ってしばしば見られる区別も浮き彫りにしている。マンハイムの生産拠点の閉鎖と残ったビールの販売だけで、アイヒバウムのブランドが消滅することを意味するわけではない。

販売を伝えた報道では、在庫処分の概要を示す同等の会社発表は引用されていない。公表された情報は、取材源を明らかにし、経営陣の発言に言及した二次メディアの報道に基づいている。そのため、現場に残るビールの正確な総量や、販売によって得られる収益など、一部の詳細は依然として不明だ。

それでも、概要は明らかだ。9月にマンハイムでの醸造を停止した後、アイヒバウムの残りのヘレスビールは、11月24日火曜日から旧施設で在庫処分価格にて直接販売され、売り切れ次第終了する見込みだ。